

| | | |
|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 岐 阜 県 の 魅 力 発 信 ・ 向 上 対 策 特 別 委 員 会 記 録 | | |
| 1 会議の日時 | 令和 7 年 10 月 8 日 開 会 午前 10 時 00 分 閉 会 午前 11 時 55 分 | |
| 2 会議の場所 | 第 6 委員会室 | |
| 3 出席者 | 委 員 | 委員長 岩井 豊太郎 副委員長 水野 正敏 森 正弘 水野 吉近 国枝 慎太郎 酒向 薫 今井 政嘉 牧田 秀憲 判治 康信 今井 瑠々 和田 直也 |
| | 執 行 部 | 別紙配席図のとおり |
| 4 事務局職員 | 課長補佐兼係長 水野 智裕 主査 脇若 知香子 | |

| 5 会議に付した案件 | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------|
| 件 | 名 | 審 査 の 結 果 |
| <p>1 県外から人の流入を促進するための産業振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A I ・ロボットなどの技術等の活用による生産性向上 「空のインフラが ”当たり前”になる日」 ードローンが溶け込む社会の設計図（岐阜から始める実装戦略）ー <p>【参考人】株式会社R O B O Z 代表取締役 石田 宏樹 氏</p> | | |
| <p>2 県外から人の流入を促進するための産業振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統産業の魅力発信 「守りから攻めへ 刃物のまちから世界へ挑む」 <p>【参考人】ニッケンかみそり株式会社 常務取締役 熊田 征純 氏</p> | | |
| <p>3 その他</p> | | |

6 議 事 録 （要点筆記）

○岩井豊太郎委員長

ただいまから、「岐阜県の魅力発信・向上対策特別委員会」を開会する。

本日の委員会は、当委員会の今年度の調査項目としている「県外から人の流入を促進するための産業振興について」をご協議いただくため開催した。

まず初めに、議題1、「A I・ロボットなどの技術等の活用による生産性向上」について、参考人として、株式会社R O B O Z代表取締役石田宏樹様にお越しいただいた。活発な意見交換をお願いする。

それでは、「「空のインフラが ”当たり前”になる日」ードローンが溶け込む社会の設計図（岐阜から始める実装戦略）ー」のご報告をお願いする。

（石田 参考人 報告）

○岩井豊太郎委員長

ただいまの報告に対して、質疑はないか。

○森正弘委員

農薬散布等で使用する大きさのドローンの稼働時間は。また、無人ヘリとの違いは。

○石田参考人

稼働時間は15分程度。農薬散布の場合、事前には場を測量し、最適な航行ルートを判断して行うため、無人ヘリと比較して効率的に散布できる。

○水野吉近委員

ドローンに搭載されるA I性能はどの程度か。

○石田参考人

ドローン自身が操縦者の求めたことを判断して実行する段階に入っていく。例えば、人や物を自動で判別し、安全制動を行う。また、通信やバッテリーの状態を判断・分析し、事前に操縦者に伝えることも行う。

○国枝慎太郎委員

ドローンの機体は中国製が多いが、国産の機体開発はできないか。

○石田参考人

中国は理系人材が豊富で、機体の価格が安いうえに性能が良いこともあり、現状では国内の産業用ドローンは95%が中国製である。一方で、「日本製」というブランドは中国においても評価されており、将来的に日本製のシェアも上がると思われる。ただし、全てが日本製である必要はなく、ドローンの心臓部である基盤やバッテリーが日本製であれば良いと考えている。

○今井瑠々委員

ドローンの普及に向け、今後どのような法整備が必要か。

○石田参考人

今後、一気に市場シェアが伸びるのは物流と考えている。第三者の上空を飛行することに規制があり、その点の法整備が進むとドローン産業が活性化する。

○今井瑠々委員

どのような人材教育が必要か。貴社が実施している教育事業ではどのようなことを行っているのか。

○石田参考人

人材については、I T教育が必要。当社の教育事業は、ドローンの紹介、プログラミングから自動操縦までの体験を行っている。

○酒向薫委員

農林業、特に鳥獣害対策について、ドローンの活用は。

○石田参考人

これまでに、県森林文化アカデミーや恵那市と連携して、ドローンを活用した鹿やイノシシの搜索を実施した。上空からサーモセンサで撮影すると、動物の熱反応で位置が特定できる。地域の猟友会と連携して駆除を実施したこともある。

○酒向薫委員

ドローンに猟銃を取り付けて駆除することは可能か。

○石田参考人

技術的には可能だが、法令的に困難。

○和田直也委員

小型ドローンの需要見込みは。

○石田参考人

井戸やトンネル内の配管など狭い場所の点検に需要がある。世界的には蜂程度の大きさのドローンもあり、軍事に活用されているという話も聞く。

○岩井豊太郎委員長

質問も尽きたようなので、しばらく休憩する。

午前10時55分 休憩

午前11時07分 再開

○岩井豊太郎委員長

それでは、休憩前に引き続き、委員会を再開する。

次に議題2、「伝統産業の魅力発信」について、参考人として、ニッケンかみそり株式会社常務取締役熊田征純様にお越しいただいた。活発な意見交換をお願いする。

それでは、「守りから攻めへ 刃物のまちから世界へ挑む」のご報告をお願いする。

(熊田 参考人 報告)

○岩井豊太郎委員長

ただいまの報告に対して、質疑はないか。

○和田直也委員

今後は、どのような挑戦を考えているのか。

○熊田参考人

まずは「ぶどう巻きつる処理機」を、海外赴任の経験を生かして世界に広めていく。今後は、農業分野を主軸に、医療分野へも展開を進めていく。

○今井瑠々委員

社会的に職人不足が問題となっているが、技術の継承、職人の育成をどのように考えているか。

○熊田参考人

当社では、かみそりを作る工程を専用機で行うため、社内でジョブローテーションするだけで、機械を使用するスキルなどは自然と向上しており、職人の教育ができています。

○今井瑠々委員

後継ぎ候補の大手企業などへの流出も問題となっているが、地元企業へ戻って来てもらうために必要なモチベーションや環境づくりは。

○熊田参考人

私が戻ってきたきっかけは、コロナ禍にマレーシアで働いていた際、ロックダウンで自分と向き合い考える時間が長かったこと。学生に話す機会があれば、自己対話が重要と伝えている。

○今井瑠々委員

古参社員とのコミュニケーションの状況は。

○熊田参考人

私の入社時には父が他界しており、親族外承継した会社に親族内承継するために戻った手前、それなりの摩擦はあった。「アトツギ甲子園」入賞の功績が認められ、常務という上の立場となり、頑張っている姿を社員に積極的に見せることでチームがまとまった。

○今井瑠々委員

「ぶどう巻きつる処理機」の開発予算は、どのように確保したか。

○熊田参考人

社内プレゼンテーションを経て確保できた。現在の製品になるまでには、関市ビジネスサポートセンターのアドバイスなどを受けながら、5年ほどかけて開発した。

○今井政嘉委員

挑戦する企業を加速させるため、行政に望む支援は。

○熊田参考人

補助金で言えば、予算の制約はあるかと思うが、年度初めの募集が多く年度末の募集が少ないという傾向があるため、通年活用できるとありがたい。また、補助金の手続きが手間だという話が、後継ぎ同士で話題となっている。その他、事業者のマッチングを積極的に行っていただけるとありがたい。

○酒向薫委員

技術習得には修行も必要。関商工高校は刃物を中心に学ぶ伝統ある学校だが、現在、生徒の6割以上は大学等へ進学しており、機械科は人が少なくなっている。また、関有知高校には存続のため刃物科を作るよう提案している。地元の学生が職務科で学んでいかないと、伝統やイノベーションはなかなか進んでいかない。

○岩井豊太郎委員長

質問等も尽きたようなので、これで終了する。

以上で本日の委員会を閉会する。

岐阜県の魅力発信・向上対策特別委員会 配席図

令和7年10月8日

第6委員会室

